



# 福島南ロータリークラブ

基本方針:ロータリーを实践しみんなに豊かな人生を

事務局/〒960-8151 福島市太平寺字通吹 6-2 ザ・36・メイファイブ 1F2号室  
tel. 024-546-3793 fax. 024-545-7878  
例会場/サンパレス福島 〒960-8101 福島市上町 4-30  
tel. 024-523-3811(代) fax. 024-523-0375  
HP アドレス <http://www.inaka.ne.jp/f-southrotary/index.html>



- 会長：大野順道 ■幹事：金子親房
- 会報委員長：丹治洋子 ■副委員長：佐藤朋也
- 委員：中央清和 菅野良二 吉田仁一 渡辺勇

## 第10回例会

平成25年9月11日(水) サンパレス福島

■会員/71名 ■出席/45名 ■出席率/63.38% ■メイクアップ/26名 ■修正/71名 ■修正率/100%

### 本日のプログラム

- 1 開会点鐘
- 2 来訪者紹介と会長挨拶
- 3 米山奨学生奨学金授与
- 4 ロータリー財団委員会セミナー報告
- 5 国際奉仕委員会セミナー報告
- 6 米山研修委員会セミナー報告
- 7 クラブ奉仕委員会セミナー報告
- 8 閉会点鐘

### 会員の広場

(25.9.14 福島民報)

新入会員の菊地和宏会員は7月に仙台で開かれた第3回治療家甲子園東北エリア大会で優勝し、11月に東京都で開かれる全国大会に出場されます。治療家甲子園は日本治療家連盟主催で各治療院が取り組む思いなどを発表し優秀な成績を取めた治療院を表彰する大会です。昨年に引き続き2年連続の全国大会。今度は福島南ロータリークラブの会員としても頑張ってください。

### 今日の一面記事

(25.9.17 読売)

再び東京で開催される2020年夏季五輪では、高度成長時代とも違った文化の「おもてなし」が期待されるに違いない。文化庁は2020年を目標に文化芸術立国中期プランの検討を進めている。地域の伝統芸能を生かした参加・体験型プログラムや五輪選手とほぼ同数の約1万人の芸術家を受け入れる計画などが議論されている。21世紀にふさわしい成熟した多文化の交流を実現させたい。

## ◆会長あいさつ◆

### 大野 順道 会長

皆さん、こんにちは。地区の各委員会セミナーが開催されています。参加下さいました方々御苦労様でした。私も後ほどご報告させていただきますが、本日は4委員会の報告がございます。中央 英男ロータリー財団委員長、林 克重国際奉仕副委員長、富田 健三郎地区米山記念奨学委員長、宜しくお願い致します。

地区クラブ奉仕委員会セミナーで、比佐臣一(ひさしんいち)クラブ奉仕委員会委員長が話された中に道元禅師の「我、人と逢うなり」我逢人(がほうじん)という言葉がありました。人生は人と逢うことから全てが始まるということですね。

「道元禅師は、中国で念願の師と出逢った時、『まのあたり先師をみる。これ人にあうなり』という言葉にしました。その人との出逢いこそが全ての始まりだと思った、感動の言葉です。構えた格好でも、些細(ささい)な偶然でも、人との出逢いは何かを生みます。自分だけで考え、自分だけで行動したのでは見つからないことがたくさんあります。人は自分

と違う領域を持って生きています。だから、人との出逢いは自分自身を大きく成長させる手助けをしてくれます。人と逢おうという心を大切に。人と逢える場を大切に。自分の人生を豊かに楽しくしてくれる師匠を発見する喜びは、何事にも変えられない喜びです。」と、石飛博光(いしとびはっこう)氏は言っています。

正にロータリーは出会いの場ではなからうかと思えます。また、先日拝聴した講演で、菊地臣一福島医科大学長は、このようなことを話されました。

『凡庸な努力は凡庸な結果しか生まれない』は、凡人には辛い格言です。努力すればそれだけで人や運と出会えるほど、世の中は単純ではないことは私のような者でも分かっています。しかし、巖に爪を立てるような努力をしていると、人に巡り会い、運も味方してくれると思いたいのです。人生の扉は、他人が開くのですから」と話されました。

自分で大変な努力をされ、人生を切り開いてきた人が言う「人生の扉は、他人が開く」という言葉は、心に響きます。



## ◆米山奨学生奨学金授与◆

### 奨学生 江 沛勲 君



大野会長より奨学金が江沛勲君へ手渡しされました。

## ◆ロータリー財団委員会セミナー報告◆

### 中央 英男 ロータリー財団委員長

平成25年8月3日(土)



南東北総合卸センター共同組合会館イベントホールに於いて、地区ロータリー財団委員会セミナーが開催されました。

平井義郎地区ロータリー財団委員会委員長より、今年度の目標並びに新しい補助金モデル「未来の夢計画」が2013年7月から実施されたことについて説明がありました。ロータリー財団管理委員会は財団プログラムを大幅に変更しました。新しい財団プログラムへの改革の目的は主として次の通りです

- ①財団のプログラムと運営を簡素化する。
- ②ロータリアンが関心を寄せている世界の優先的ニーズに取り組むことによって、最大の成果が期待できる奉仕活動に焦点を絞ること。
- ③世界的目標と地元の目標の両方を果たすためのプログラムを提供すること。
- ④意志決定権をさらに地区に移行することによって、地区レベルでロータリー財団が自分たちのものであるという自覚を高めること。
- ⑤ロータリー財団の活動に対する理解を深め、ロータリーの公共イメージを高めること。

## ◆国際奉仕委員会セミナー報告◆

### 林 克重 国際奉仕副委員長



夏休み最後の土曜、子供たちで賑わっているリステル猪苗代で国際奉仕委員会セミナーが開催されました。

当クラブからは、地区国際奉仕委員長斉藤浩さん、新世代奉仕委員長富田健三郎さん3名でセミナーに参加させていただきました。

只野由香里さんがアメリカのフィンドレイ高校へ1年間留学したことの報告でした

フィンドレイは、人口41,000名ほどの田舎町で3つのホストファミリーにお世話になったこと、被災地からの留学生として、様々な場所で被災地の現状などをプレゼンテーションをさせて頂いたそう

です。磯員志萌さんは、第4640地区メキシコ、クレブランドへ留学した報告を受けました。街には自販機もなく日本人が珍しい街だったそうです。そのような田舎町で人と人の関わりの大切さを学んだそうです。東日本大震災、津波のことなども伝えてくれたとの事です。最後に今回の留学で学んだことの一つは、人と人の関わりの大切さ、自分の意思をもった生き方をしたいという言葉で締めくくられました。

## ◆国際奉仕委員会セミナー報告◆

### 富田 健三郎 地区米山奨学会委員



ロータリー米山記念奨学会事業は全国のロータリアンからの寄付金を財源として日本で学ぶ私費外国人留学生に奨学金を支給し支援する国際奨学事業です。

1971年(昭和46年)RI会長代理として日本を訪問したRI事務総長ジョージ・ミーンズから日本独特の優れた国際理解活動であると称賛され、その拡大に一層努めるようにと公式の場で激励されるに及んで、その意義と地位が実質的に公認され世界に類を見ない日本ロータリーの「多地区合同奉仕活動」の位置づけとなりました。

## ◆クラブ奉仕委員会セミナー報告◆

### 大野 順道 会長

去る8月31日、南東北総合卸センター組合会館にて地区クラブ奉仕委員会セミナーが開催されました。各クラブへの要請は、会長幹事並びに会員増強委員会でした。クラブ奉仕委員会セミナーが本年度、会員増強に力を入れているのが伺われます。

福島南ロータリークラブでは、大橋バスターガバナー(当クラブでは、会員増強副委員長ですが)、野地利雄東北第1区ガバナー補佐、クラブとしては、金子幹事と私が参加致しました。

西川博美地区クラブ奉仕委員会副委員長の司会で行われ、渡邊公平ガバナーの開会点鐘で開催されました。ガバナー挨拶後、クラブ奉仕委員会、各小委員会委員長の講話がありました。

### 今月・来月のプログラム

- 9月25日(水)新会員歓迎会・会員研修会
- 10月2日(水)ガバナー補佐訪問 ロータリーの友 読みどころ・誕生者お祝い
- 10月9日(水)ゲストスピーチ・第5回理事会

### 一編集後記一

素敵なお顔を会報に載せたいと思います。会報担当者が皆さまにカメラを向けた際は、ぜひレンズのぞき込んでください。(かんの)